

培土と排水・雑草対策の徹底を！

梅雨入り後の降雨の影響で、培土作業が遅れ、排水不良や雑草の発生などにより収量や品質の低下が懸念されます。

培土作業を行っていないほ場では、可能な限り早急 to 実施しましょう。

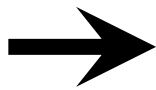
まもなく開花期を迎えますが、病害虫による被害が発生しないよう、確実に防除を実施しましょう。

1 排水対策・培土の実施

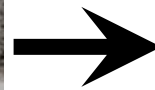
- ・ 1日でも早く培土ができるようほ場排水に努め、ほ場の乾きを促進しましょう。
- ・ ほ場が乾いたら速やかに培土を行い、2回の培土を確実に実施しましょう。



スコップ等で排水対策を！



排水口への連結で、停滞水を排除！



停滞水を流そう！

2 病害虫防除

- ・ 基本防除を徹底しましょう。
散布に際しては、莢や葉の裏にも薬剤がかかるよう、風の無い朝夕に防除を実施してください。
- ・ 葉に害虫の被害が見られたら、速やかに随時防除をしましょう。

※詳細は裏面をご覧ください



被害例：ウコンノメイガの葉巻

防除の目安：7月下旬
葉巻6個以上/本

3 干ばつ防止対策

- ・ 8月上～中旬は莢が伸長し、豆が肥大するために最も水分が必要な時期です。
- ・ 晴天日が続く（目安：5日間）、葉が立ち始めたら、早めに畦間かん水を行いましょう。なお、かん水は短時間で行い、ほ場全体に行き渡ったら速やかに排水してください。

【雑草対策】

散布方法	農薬名	雑草の種類など	10a 当たり散布量等
雑草茎葉散布	ポルトフロアブル	イネ科雑草 3～10葉期まで (広葉雑草に効果はない)	200～300ml を水 100ℓ で希釈する 収穫 30 日前まで、散布は 1 回のみ
	大豆バサグラン液剤	畑地一年生雑草 6 葉期まで (イネ科雑草に効果はない)	100～150ml を水 100ℓ で希釈する 収穫 45 日前まで、散布は 1 回のみ
畝間処理	バスタ液剤	雑草全般	500ml を水 100ℓ で希釈する 強風時の散布を避けるなど、大豆にかからないよう注意

注) 大豆バサグラン液剤の使用時期は、登録上で開花前(7月20日頃)までとなっていますので、使用される場合は使用基準を遵守してください。

【病害虫防除】

《粉剤体系の場合》

	対象病害虫	薬剤名	散布時期	散布量
基本防除	〔1回目〕 紫斑病 カメムシ類、マメシンクイガ	スミチオンベルコート 粉剤 DL	莢が伸びきった頃 (8月上旬) 収穫 21 日前まで	3 kg / 10a
	〔2回目〕 紫斑病 カメムシ類	マネーシトレボン粉剤 DL	1 回目の 2 週間後 (8月下旬) 収穫 30 日前まで	4 kg / 10a
随時防除 (発生時)	ウコンノメイガ、 マメシンクイガ	サイアノックス粉剤	葉巻きが見られ始めたら (7月下旬～8月上旬頃) 収穫 7 日前まで	4 kg / 10a
	アブラムシ類、カメムシ類 フタスジヒメハムシ、マメ シンクイガ	ダントツ H 粉剤 DL	葉や莢に食害が見られたら (9月上旬頃) 収穫 7 日前まで	3～4 kg / 10a

《液剤体系の場合》

	対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	散布時期	散布量
基本防除	〔1回目〕 紫斑病 カメムシ類 マメシンクイガ	ベルコートフロアブル (収穫 7 日前まで)	1,000 倍	莢が伸びきった頃 (8月上旬)	150～300ℓ / 10a
		ダントツフロアブル (収穫 7 日前まで)	2,500 倍		
	〔2回目〕 紫斑病 カメムシ類	アミスター 20 フロアブル (収穫 7 日前まで)	2,000～ 3,000 倍	1 回目の 2 週間後 (8月下旬)	150ℓ / 10a
		トレボン乳剤 (収穫 14 日前まで)	1,000 倍		
随時防除 (発生時)	ウコンノメイガ、マメ シンクイガ	サイアノックス粉剤 (収穫 7 日前まで)		葉巻きが見られ始めたら (7月下旬～8月上旬頃)	4 kg / 10a
	アブラムシ類、カメム シ類、フタスジヒメハ ムシ、マメシンクイガ	ダントツ水溶剤 (収穫 7 日前まで) 散布 3 回まで	2,500 倍	葉や莢に食害が 見られたら (9月上旬頃)	100～300ℓ / 10a

注) 基本防除剤は、大豆栽培面積に合わせ数量を配布します。(薬剤は、高岡地域農業共済組合より一部助成)

JA栽培管理記録とGAPチェックシートを記入しましょう!

【お問い合わせは JA いみず野本店 第2事務所 営農施設課 TEL52-6805
高岡農林振興センター 農業普及第二課 射水班 TEL26-8478 まで】